

入学前課題の講評（地域研究学域）

皆さんが読んだのは「課題図書」であって、「参考文献」ではありません。このことを踏まえていないものが目立っています。その図書に関してほとんど書かずに、全く別の文献かインターネットで得た情報を書いているもの、あるいはその図書の内容を表面的に捉えただけで、書きやすいことを自由に書いているもの、などが散見されました。

「その中で提案されている地域を理解する視点・方法」がどういうものかを、前半で書くべきです。それができていないのは、おそらく精読していないからでしょう。まず図書を精読して、内容を整理し、ノートに書き出し、それをもとに自分の文章を書くべきです。そのうえで、「あなたの知る地域の理解にどのように活かすか」を書くべきでしょう。

重要なことは、読み手のことを常に視野に入れて書くということです。わずかに1200字程度のことですが、段落を設けることで、読み手は読みやすくなります。読みやすい状況であれば、あなたの書いたことがよりよく理解してもらえます。段落の冒頭では一字分を空けるのが決まりですが、ご存じですか。読みやすさの点では、句読点も重要です。読点が全く使われずに、ただ単に文が並んでいるというレポートも結構ありました。提出する前に、推敲したのでしょうか。推敲する際には、ぜひ音読してください。声を出すことで、表現のおかしいところに気づきます。

このような入学前課題の場合に、「です・ます」調ではなく、「である」調で書くことも、前提のひとつです。この文は講評ですので、前者で書いています。

入学までにはまだ時間があります。7冊のうちの1冊が、あなたの手元にあります。たぶん黙読して、入学前課題を作成したのだと思います。それはそれでけっこうです。でも、音読することをおすすめします。読めない字を読めないままにしておいてはいけません。

以上